

令和 6 年度 沖縄観光コンテンツ開発支援事業補助事業  
公募要領

## 1 事業の目的

沖縄県では、「世界から選ばれる持続可能な観光地の形成」を目指し、多彩かつ質の高い観光コンテンツの開発を推進している。

本事業では、民間事業者等の実施する沖縄のソフトパワー（歴史、自然、文化、芸能等）を活用した観光コンテンツ開発を支援することにより、観光消費額の向上や滞在日数の延伸等、沖縄の抱える観光課題解決を図ることを目的とする。

## 2 事業期間

- (1) 交付決定の日から令和 7 年 1 月 31 日までの事業者が設定する期間とする。  
(令和 7 年 2 月 28 日までに精算業務及び事業報告を行うこと。)
- (2) 助成事業は、審査委員会による毎年度の審査・採択を受けることで、最大 3 回まで支援を受けることができる。ただし、本年度の採択が来年度以降の採択を確約するものではない。

## 3 応募参加資格

次に掲げる要件をすべて満たす企業又は団体であること。

- (1) 沖縄県内に本店又は支店等を有する法人であること。共同企業体の場合は、沖縄県内に本店又は支店等を有する法人を代表企業とすること。
- (2) 当事業の目的を理解し、補助事業を的確に遂行するために必要な人員、管理体制、経営基盤等を有していること。
- (3) 当補助事業の応募にあたり、提案する実施内容について、他の補助事業等から助成を受けていないこと。
- (4) 地方自治法施行令（昭和 22 年政令第 16 号）第 167 条の 4 第 1 項の規定に該当しないこと。

＜参考＞地方自治法施行令第 167 条の 4 第 1 項

普通地方公共団体は、特別の理由がある場合を除くほか、一般競争入札に次の各号のいずれかに該当する者を参加させることができない。

- ① 当該入札に係る契約を締結する能力を有しない者
  - ② 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者
  - ③ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 32 条第 1 項各号に掲げる者
- (5) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第 2 条第 6 号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）に該当する者でないこと及び暴力団又は暴力団員と密接な関係を有する者でないこと。
  - (6) 会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）に基づき更生手続開始又は民事再生手続の申立てがなされている団体でないこと。
  - (7) 共同企業体による申請の場合、共同企業体を構成する全ての事業者は、応募資格（4）、

- (5) 及び(6)の要件を満たすこと。  
(8) 法人の場合は、直近2年間の法人事業税及び法人県民税について滞納がないこと。

#### 4 補助対象事業者

- (1) 観光関連事業やエンターテイメント事業等に取り組む民間事業者  
(2) 新たなユニークベニューやチームビルディング等の MICE メニュー開発に取り組む民間事業者  
(3) 地域観光協会、登録観光地域づくり法人（登録DMO）、NPO 法人等

#### 5 補助対象事業

次の(1)～(3)をすべて満たす事業であること。

- (1) 沖縄のソフトパワー（歴史、自然、文化、芸能等の観光資源）を活用した多彩で付加価値の高い観光コンテンツ開発であること。  
(2) 観光消費額の向上や滞在日数の延伸等に繋がる取組であること。  
(3) 持続性及び発展性が見込まれ、自走化を前提とした取組であること。

##### ※具体的なイメージ例

###### <観光コンテンツ開発>

- ・世界文化遺産、世界自然遺産などを活用したコンテンツ
- ・沖縄のソフトパワー（歴史、自然、文化、芸能等の観光資源）を活用した体験型のコンテンツ
- ・VR・AR等の新たなデジタル技術を活用した体験型のコンテンツ
- ・離島の魅力ある資源を生かしたコンテンツ
- ・ウェルネスなど心身の健康増進や回復に繋がるコンテンツ
- ・雨天時・ボトム期・ナイトタイムなど多様なニーズに対応したコンテンツ

###### <MICEコンテンツ開発>

- ・沖縄の観光資源や世界文化遺産などの歴史文化施設、公的空間等をMICEの開催場所として活用するユニークベニュー
- ・沖縄のソフトパワー（歴史、自然、文化、芸能等の観光資源）を活用したチームビルディングメニュー
- ・沖縄の特性等を活かした、沖縄独自のSDGs・CSRプログラム
- ・沖縄県の産業振興施策と関連する産業観光メニュー
- ・デジタル技術を活用し、既存のMICEプログラムの高付加価値化へ繋げる取組

#### 6 補助率・補助対象経費等

##### (1) 補助率

- 1年目（1回目）：補助対象経費総額（税別）の8/10以内  
上限1,000万円、下限200万円  
2年目（2回目）：補助対象経費総額（税別）の2/3以内  
上限800万円、下限200万円  
3年目（3回目）：補助対象経費総額（税別）の1/2以内

上限 600 万円、下限 200 万円

(2) 補助対象経費

補助対象経費は、補助対象事業に直接必要とされる以下の経費とする。

人件費	補助事業に直接従事する者の人件費 ・時給×従事した時間数で算出すること。 ・時給単価は、基本給（各種手当費、法定福利費等は除く。）より算出すること。 ・基本給については過去の支給実績を踏まえて算出すること。
事業費	1 謝金 事業を行うために必要な謝金 （講演、原稿の執筆、ガイド等に対する謝金） 2 旅費 事業を行うために必要な国内外出張に係る経費 3 賃金 事業に直接従事したアルバイト、パートに係る経費 （ただし「人件費」に含まれるものを除く） 4 需用費 事業を実施するために必要な消耗品、印刷製本、食料費等に要する経費 5 役務費 事業を行うために必要な人的サービス等の提供（デザイン料、広告料、筆耕・翻訳料、保険料等）に要する経費 6 使用料及び賃借料 事業を行うために必要な機器や会場等の使用・賃借（リース、レンタル料）に要する経費 7 委託料 補助事業者による直接実施が難しいもので、他の事業者に委託する場合に必要な経費 ・事業の企画判断、管理運営等、補助事業の根幹に関わる業務の委託は不可とする。 8 その他諸経費 その他知事が必要と認める経費

※補助対象事業の実施に伴い、交付申請時の額を上回る収入が生じたと認められる場合には、交付決定額より上回る収入を差し引いた補助金額を限度とする。

(3) 補助対象外経費

- ・本事業に直接関係のない経費
- ・補助対象期間外に発生した経費
- ・事業者における経常的な経費（家賃、光熱費等）
- ・実施主体（補助事業者）の会食・飲食費

- ・施設整備や機材購入などのハード整備（設備投資）に係る経費
- ・備品購入に係る経費（消耗品等は除く）
- ・航空運賃に含まれるオプション（クラスJなど）相当料金
- ・手数料（振込手数料、代引き手数料等）
- ・証憑書類（領収書等）が確認できない経費
- ・自社事業と明確な区分が困難である経費
- ・消費税、地方消費税
- ・その他、不適切と認められる経費

#### （４）利益等排除について

補助対象経費の中に補助事業者の自社製品の調達等に係る経費がある場合、補助対象経費の実績額の中に補助金を受ける事業者（以下、補助事業者とする）自身の利益が含まれることは、補助金交付の目的上ふさわしくないと考えられる。

このため、補助事業者自身から調達等を行う場合は、原価（当該調達品の製造原価など※）をもって補助対象経費に計上する。

※補助事業者の業種等により製造原価を算出することが困難である場合は、他の合理的な説明をもって原価として認める場合がある。

## 7 説明会及び応募方法等

### （１）説明会の開催について

- ① 日時：令和6年4月23日（火）10:30～11:30
- ② 場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
- ③ 開催方法：来場及びリモート（ZOOMを利用したハイブリッド方式）
- ④ 申込方法：下記専用フォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/BJvfDntCwpm1iUQe9>

※WEB 申込が難しい場合は、電子メール（[okicon@rpi.co.jp](mailto:okicon@rpi.co.jp)）にてお申込みください。

（メールの場合は以下の内容を記載願います。）

- ・所属・氏名・電話番号・メールアドレス・参加人数
- ・参加方法（来場又はリモート）

### （２）質問について

本公募要領に関して疑義がある場合は、以下のとおり質問書を提出すること。

- ① 質問受付期限：令和6年4月26日（金）12時
- ② 様式：質問書【様式】
- ③ 提出方法：電子メール
- ④ 宛先：沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課

メールアドレス [aa057137@pref.okinawa.lg.jp](mailto:aa057137@pref.okinawa.lg.jp)

※質問に対する回答は、沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課HPに掲載する。

### (3) 応募書類の提出について

- ①提出期限：令和6年5月10日（金）17時（期限厳守）
- ②提出先：沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課観光資源班  
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号
- ③提出方法：持参又は郵送により提出すること。  
※郵送の場合は、到着確認が可能な手段をとるものとし、提出期限内必着とすること。（期限を過ぎた場合はいかなる場合も受け付けません。）

## 8 応募書類

### (1) 提出書類

- ①応募申請書【様式1】
- ②積算書【別記様式1-1】
- ③収支計画書【別記様式1-2】
- ④事業スケジュール【別記様式1-3】
- ⑤事業全体図【別記様式1-4】
- ⑥実施計画書【任意様式】  
※「実施計画書記載要領」を参考に作成すること。  
(原則A4判、縦置き、10p以内)
- ⑦会社概要書【様式2】
- ⑧実績書【様式3】
- ⑨誓約書【様式4】
- ⑩直近3年間の賃借対照表、損益計算書
- ⑪履歴事項全部証明書（登記簿謄本）※写し可
- ⑫法人の場合は、直近2年間の法人事業税及び法人県民税について滞納がないことを証明する書類（取得機関：県税事務所）
- ⑬共同企業体協定書【任意用式】  
※共同企業体の場合は、⑦～⑫を全構成員分提出すること。

### (2) 提出部数について

- ①～⑧：8部（原本1部、複本7部）
- ⑨～⑬：1部（原本に添付）

## 9 審査等

### (1) 事業実施までの流れ

- ①補助を受けようとする事業者（以下「申請者」という。）が「8応募書類」に示した書類を県に提出する。
- ②提出書類に基づき県及び事務局において、一次審査（書類審査）を実施する。
- ③一次審査（書類審査）を通過した申請者を対象に、二次審査（プレゼンテーション審査）を実施し、採択事業者を決定する。
- ④採択の通知を受けた申請者（以下「補助事業者」という。）は、補助金交付申請書を県に提出する。
- ⑤補助事業者は、県からの交付決定後、事業を開始することができる。

(2) 複数年度応募した場合の審査について

複数年度の事業計画で応募し採択された場合においても、次年度以降の採択を確約するものではない。また、過年度の事業実施状況を確認し、適宜事業計画の見直しを求める場合がある。

(3) 審査の方法について

① 第一次審査（書面審査）

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課において書面審査を実施し、第一次審査の結果は電子メール及び書面にて通知する。選定された事業者に対しては、結果及び第二次審査の実施日時等を通知する。選定されなかった事業者に対しては、結果のみを通知する。

② 第二次審査（プレゼンテーション審査）

沖縄県及び外部有識者等で構成する選定委員会において、実施計画書の内容等についてプレゼンテーション審査を行い、補助事業候補者を選定する。第二次審査の結果については、電子メール及び書面にて通知する。

※審査は非公開で行い、審査経過に関する問い合わせは受け付けない。

10 その他留意事項

- (1) 応募書類等の作成に要する経費、第二次審査に参加する経費等については、応募者の負担とする。
- (2) 提出された応募書類等については返却しない。
- (3) 補助事業者選定に関する審査内容及び経過等については公表しない。
- (4) 本事業は国の補助などを活用して実施するものであり、補助事業者は経理管理にあたっては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法第 179 号）に基づき適正に執行し、また、沖縄観光コンテンツ開発支援事業補助金交付要綱等を遵守すること。
- (5) 補助事業者は事業終了後、県からの追跡調査や事後評価に対応すること。
- (6) 沖縄県は、観光コンテンツ開発を効果的・効率的に推進し、自走化に結びつけられるよう、補助事業者への指導や支援を行うための業務を委託しており、事業内容や必要経費については改善指導等を行う場合がある。
- (7) 補助事業者は、補助対象経費について、他の経理と区分して、その収入及び支出を記載した帳簿を備え、経理の状況を常に明確にし、関係証拠書類とともに補助対象事業を廃止した日又は完了した日の属する年度の翌年度から 5 年間保管すること。

11 問い合わせ先

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1 丁目 2 番 2 号 沖縄県庁 8 階  
沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課 観光資源班 担当：吉嶺、照屋  
電話：098-866-2764 FAX：098-866-2765

【様式1】

受付番号	
------	--

令和6年度  
沖縄観光コンテンツ開発支援事業  
事業計画 応募申請書

応募事業（□にチェックを入れること。）

- （1）観光コンテンツ開発に関する事業  
    令和6年度実施（単年度）  
    令和6年度～令和8年度実施（複数年度）
- （2）MICEコンテンツ開発に関する事業  
    令和6年度実施（単年度）  
    令和6年度～令和8年度実施（複数年度）

令和 年 月 日

沖縄県知事 殿

会社名(※)  
住 所 〒  
代表者名  
連絡担当者（所属・職・氏名）  
電話番号  
FAX番号  
E-mail

※企業共同体的場合は代表幹事社名を記載すること

【共同企業体構成企業】（※共同企業体の場合のみ記載）

※共同企業体の場合、別途、共同企業体協定書の提出をお願いします。

【様式2】

会社概要書

会社名 (代表者氏名)			
所在地(都市名)		関係会社等	
設立年月日			
資本金	円		
従業員数	人	取締役数	人
主要加盟団体等			
会社の主要業務：			
主要株主	株主名	持株割合	
		%	

※共同企業体の場合は、構成企業ごとに本様式を作成してください。

※組織図を添付してください。



【様式3】

類似事業等の実績書

※過去5年間（令和元年度～令和5年度）の類似事業等の実績を記入して下さい。

年度	補助元	補助額	内 容

※共同企業体の場合は、構成企業ごとに本様式を作成して下さい。

【様式4】

令和 年 月 日

沖縄県知事 殿

会社名

住所

商号又は名称

代表者名

印

誓 約 書

私は、令和6年度沖縄観光コンテンツ開発支援事業補助事業 公募要領「3 応募資格」の（3）及び（4）に該当することを誓約します。

※共同企業体の場合、全構成員ごとを作成すること。

積算書

内容	発注内容等	単価	数量	単位	金額(消費税抜き)	消費税額	金額(消費税込み)	備考
人件費				人日	0	-	0	
				人日	0	-	0	
				人日	0	-	0	
				人日	0	-	0	
[人件費・計]					0		0	
事業費				名	0	0	0	
謝金				回	0	0	0	
旅費					0	0	0	
賃金					0	0	0	
需用費					0	0	0	
役務費					0	0	0	
委託料					0	0	0	
使用料及び賃借料					0	0	0	
その他知事が必要と認める経費					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
					0	0	0	
[事業費・計]					0	0	0	
	①補助対象経費予定額				0			
	補助率乗算(1年目:8/10、2年目:2/3、3年目:1/2)				0			
	②補助金交付申請額(千円未満端数切捨て)				0			
	人件費割合				#DIV/0!			

2・3年目事業の場合、計算式を修正してください。

事業費区分を適宜選択してください。

注1)旅費等消費税込みで金額記載されている取引については、以下の算式で統一すること。

★記載金額 ÷ 1.1 = 税抜金額(小数点以下切捨て)

★記載金額(消費税込) - 消費税額 = 金額(消費税抜き)

## 収支計画書

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
①助成金(申請額)	0	⑥事業費	0
②事業収入 (内訳)			
③協賛金・広告収入 (企業名) (企業名) (企業名)			
④借入出資金			
⑤自己資金			
小計(A)	0	小計(B)	0
⑦営業利益額(A-B)(※収入)	0		
⑧営業利益率(⑦÷A)			



## 〇〇事業

## 1. 事業の概要

どのような地域の観光資源を活かした観光コンテンツ開発に取り組み、  
どのような沖縄観光の課題解決に資するのか記載。

(4) 事業の継続に向けた取り組み

## 2. 実施内容

下記の項目について記載

- (1) 実施地域
- (2) 実施時期
- (3) 磨き上げる（活用する）資源
- (4) 想定ターゲット
- (5) ビジネスモデル
- (6) 実施事業内容
- (7) 事業費（総事業費、補助額）

## 4. 実施体制

・実施体制（役割）  
それぞれの役割を含め記載すること。※実施体制図を添付のこと。

## 3. 事業の目標等

目標については、以下の視点で記載  
 (1) 目標（定量目標および定性目標）  
 (2) 事業の効果  
 (3) 実現のための課題

イメージ写真  
イラスト等

# 令和6年度沖縄観光コンテンツ開発支援事業補助事業 実施計画書記載要領

※実施計画については下記を参考として簡潔に整理の上作成すること（A4縦置き10p以内）

## 1. 事業概要

○取り組む事業の概要について、下記の観点を盛り込み簡潔に記載することとし、必要に応じて図表等を使用しても構わないが分かり易く整理のこと。

《盛り込む必要がある事項》

- ・ 取組みの背景（経緯など）
- ・ 開発するコンテンツ等の特徴（活用する資源、地域、取組みの新規性など）  
※活用する資源：沖縄のソフトパワー（歴史、自然、文化、芸能等）
- ・ 事業を進める上での課題点
- ・ 沖縄の観光課題解決への寄与  
※沖縄の観光課題：観光消費額の向上、滞在日数の延伸、付加価値の向上、閑散期対策等

## 2. 実施内容

本事業で実施する具体的な内容について、下記項目ごとに記載すること。

### (1) 実施地域

### (2) 実施時期

○事業スケジュール（別記様式1-3）を踏まえて記載すること。

《例》令和6年8月～令和7年1月

○複数年の取組（本事業への応募を予定する範囲）の場合は想定年度も記載すること。

《例》

令和6年度：令和6年8月～令和7年1月（コンテンツ開発・検証）

令和7年度：令和7年5月～令和8年1月（開発コンテンツのブラッシュアップ）

令和8年度：令和8年5月～令和9年1月（商品完成、市場投入）

### (3) 磨き上げる（活用する）資源

○沖縄らしさを有する資源の活用について記載し、その資源をどのように磨き上げる（活用する）のか記載すること。

### (4) 想定ターゲット

○ターゲット設定とその理由について記載すること。

### (5) ビジネスモデル

○想定する市場、販売方法、事業規模等について記載すること。

### (6) 実施事業内容

○本事業を活用して実際に取り組む事業について記載すること。

## (2) 事業の効果

○沖縄観光の課題解決にどのように資するのか、具体的に記載すること。

## (3) 実現のための課題

○事業を推進するにあたっての課題と課題に対処するための手法、取り組みについて記載すること。

※2年目、3年目の事業者は、過年度の取組と課題を記載。(前年度と同様の取組のみは認められません)

## (4) 事業の継続に向けた取り組み

○事業を継続するうえで、自治体、観光協会等の関係者との連携について具体的に記載すること。

○自走化に向けてどのような工夫をするのか具体的に記載すること。

## 4. 実施体制

○実施体制について、それぞれの役割を含め記載すること。

※実施体制図を添付のこと。

### 補足：採択要件に係る留意事項

○沖縄観光の課題解決に寄与する取り組みとなっているか。

○補助事業終了後の自走化に向けた具体的な内容となっているか。

○事業を検証する取り組みが明確になっているか。